

公立陶生病院に通院されている患者さんへ

「多剤耐性結核症の登録研究」についての情報開示

2007年の全国調査では、新規の結核患者さんのうち8.5%が基本的な抗結核薬のいずれかに耐性を持っており、0.4%の患者さんがイソニアジドとリファンピシンに耐性（多剤耐性）であるといわれています。

多剤耐性結核は結核症の減少とともに減少していると推定されますが、専門家も減少しており、情報共有による、専門家の育成が必要と考えられます。

本研究では、2019年1月以降の10年間に発生した多剤耐性結核症の登録制度を行い、性、年齢、出身地、治療歴、合併症、治療成績、治療薬剤などの情報を収集し集計するものです。これにより、日本における多剤耐性結核治療の有効性を検討し、今後の日本の多剤耐性結核のあり方を検討するための資料となります。新たに、対象となった方から血液、喀痰などを採取して検査することはありません。

また、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。結核菌自体を結核研究所に収集し菌の性質について検討します。

研究機関：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科

研究代表者：吉山 崇（結核予防会結核研究所企画主幹）

結核研究所からのお知らせ「多剤耐性結核症の登録研究」は以下のURLからご覧になれます。

http://www.jata.or.jp/tp_detail.php?id=112

上記に該当する方で、この研究についてのご質問がある場合や、研究協力の了承をいただけない場合は、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師 松田俊明（電話 0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。

研究責任者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 近藤 康博

研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 木村 智樹

研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 片岡 健介

研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 松田 俊明

研究協力者：公立陶生病院 感染症内科 武藤義和